



故郷の空 No.20

東京には「都電荒川線」という路面電車が走っているが、もう一つ、「多摩電」（東急世田谷線）という普通の電車と路面電車の中間のような電車がある。非常に人気があつてT.Vドラマなどの撮影にもよく使われる。

東京オリンピック開催の頃、時代遅れということとで、路面電車やこの電車の存在が風前の灯火（かぜのとう）になつた時期があつたという。地元住民の反対で残つたらしいが、今では、環境にやさしいという現在の理由にも後押しされ、以前より注目を浴びる存在になつている。

一時期ボクもこの電車を利用していたことがあつて、松山の市電を思い出したりして乗っていたものである。同じように、この電車に乗りながら自分の故郷に思いを馳せている人も多いのではないだろうか。そして、我々は手塚治虫の描く未来社会の漫画のようにはいかないことを思う。また、郷愁が欠かせないものであり、それを体験させてくれる「装置」もまた欠かせないことを、東京に長く暮らして思うことがこの頃多い。

（彫刻家）

むらかみ・たもつ モダンアート協会会員。一九五〇年、大州市生まれ。東京都杉並区在住。東京学芸大学卒。モダンアート展（新人賞、部門賞、協会賞）、文化庁現代美術選抜展、新潟市野外彫刻大賞展、KAJIMA彫刻コンクール作品展（銀賞）、個展ほか。山形・蔵王高原、三重県・尾鷲市、東京・神田などに彫刻作品設置。文化庁派遣芸術家として十一月より一年間、英国・ロンドンに滞在予定。

郷愁電車

村上 保

Tamotsu Murakami